

2004 年度 第 1 回 土木史研究委員会 議事録 (案)

日 時：平成 16 年 8 月 30 日(月) 10：00～12：30

場 所：土木学会 講堂

出席者：伊東委員長、松村副委員長、昌子幹事長、五十畑委員、河村委員、篠田委員、鈴木委員、田中(邦)委員、田中(尚)幹事、為国幹事、知野幹事、樋口幹事、日野幹事、深堀幹事、藤井幹事、三浦幹事、土木学会・橋本氏

配付資料：

資料 1-1：土木学会 土木史研究委員会 議事次第（平成 16 年度 第 1 回）

資料 1-2：土木史研究委員会・委員構成及び委員連絡票

資料 1-3：平成 15 年度 第 2 回 土木史研究委員会 議事録(案)

資料 1-4：平成 15 年度 土木史研究委員会・幹事会活動報告

資料 1-5：土木史研究編集小委員会報告

資料 1-6：「土木史フォーラム」発行回数変更の提案

資料 1-7：土木史研究委員会オーラル・ヒストリー研究小委員会 平成 16 年度活動予定

資料 1-8：土木史教材検討小委員会報告

資料 1-9：土木学会選奨土木遺産選考委員会報告

資料 1-10：平木(水路)橋の保全的活用に関する要請

資料 1-11：土木学会第 59 回年次学術講演会(平成 16 年度)共通セッション(CS-6)プログラム

議事：

1. 委員長挨拶（伊東委員長）

■ 委員会開会にあたり、伊東委員長から挨拶をいただいた。

・現在の土木史研究には様々な課題が存在しているものと認識している。新たな段階にきている「選奨土木遺産」のあり方等を課題とし、委員会の発展に貢献したいと考えている。土木遺産が新聞に取り上げられるようになっており、土木遺産がどのように活用されるべきかが問われているものといえる。また、各委員・幹事には土木学会による委員会評価を念頭に置き、活動していただきたい。

2. 配付資料の確認（昌子幹事長）

■ 配付資料の確認がなされ、資料 1-9 の 2 ページ目を差し替えることが報告された。

3. 委員・幹事の自己紹介と委員連絡票確認 ⇒資料 1-2

■ 出席している各委員・幹事の自己紹介と委員連絡票の確認がなされた。また、委員連絡票に訂正箇所がある場合、橋本職員まで連絡することが各委員・幹事に依頼された。

4. 前回議事要旨の確認（昌子幹事長）⇒資料 1-3

■ 前回(平成 15 年度第 2 回土木史研究委員会)の議事録案の確認を行い、修正すべき点等がある場合は昌子幹事長まで連絡することが各委員・幹事に依頼された。

5. 報告事項

1) 平成 15 年度土木史研究委員会・幹事会活動報告並びに収支報告（昌子幹事長） ⇒資料 1-4

■ 配付資料に基づき、平成 15 年度における委員会・幹事会・各小委員会の活動が報告された。

■ 資料に記載されていなかった事項として、古市公威に関する出版準備や土木学会全国大会における研究討論会の開催が指摘された。

- 委員会活動度個別調査書に関連し、中村良夫前委員長からの要望が紹介された。
- 土木学会 橋本氏から平成 15 年度における予算と収支決算が報告された。また、本年度の予算を今回の委員会において審議することが確認された。

2) 土木史研究編集小委員会報告（深堀幹事） ⇒資料 1-5

- 配付資料に基づき、土木史研究小委員会の委員構成や論文審査方式、小委員会収支が報告された。
- 投稿料や審査方式は昨年度と同様であるが、論文集・講演集の価格や論文集と講演集を分冊とすることが変更点として報告された。
- 次年度の発表会を 2005 年 6 月 18 日～19 日に日本大学で開催することが報告された。
- 査読者の決定には幹事会での意見を反映すること、論文査読時に各部門に対する査読者の認識を確認すること、第 25 回研究発表会における発表方法を開催校と相談することが今後の予定であることが報告された。

3) 土木史フォーラム小委員会報告（知野幹事） ⇒資料 1-6

- 土木史フォーラム第 27 号発行の報告と委員構成はフォーラム紙面上を参照していただくことの依頼がなされた。

- 配付資料に基づき、土木史フォーラムの発行回数を 3 回から 2 回へと削減することが提案された。これは幹事会における議論を踏まえた提案であり、具体的には 4 月の発行を停止し、8 月と 12 月の 2 回とすることで現在の予算で運営可能となることが説明された。また、印刷した土木史フォーラムの送付を優先することが小委員会の意向であり、現在以上に予算が縮減されるなどの状況変化があった場合には PDF への移行や送付数の削減を検討することが説明された。以上の提案を受け、土木史フォーラムのあり方を中心とした意見交換がなされた。

・土木史フォーラムにとって、研究発表会の開催案内から記事内容へと重点を移すことは重要なポイントである。当初は非会員の発表会への参加を促すことを目的としていたが、現在は異なっているのでないだろうか。記事が対象とする読者について、小委員会で十分に検討してほしい。（為国幹事）

→土木史フォーラム発刊当初は、委員会とは独立した議論の場として発行していた。しかし、予算の関係などから後に機関誌のような位置づけとなった経緯にある。（五十畑委員）

→土木史に関し、自由な議論ができる場とすることが望ましい。開催案内等の掲載にこだわる必要はないと考える。ただし、予算の問題がネックとなる。（為国幹事）

・土木学会会員は PDF での配信を前提とするなど、思い切った方法を取ってもよいのではないだろうか。（為国幹事）

→過去に土木史研究委員会の委員・幹事には PDF 配信を行ったことがあるが、現在は停止している。（日野幹事）

・大半の土木学会会員はインターネットでカバーできるのではないか。ただし、土木史フォーラムでファンを増やすという面で問題が生じる。インターネットで 70%程度をカバーできるのであれば、支障は少ないのではないか。将来的には PDF 等に切り替えざるをえないだろう。（河村委員）

・土木史フォーラムを戦略的に活用することを検討すべきである。（鈴木委員）

・以前に行ったアンケートでは PDF による配信希望も回収数も非常に少なかった。少しでも郵送料を低減させることを目指し、前体制では PDF 配信を実施した。様々に状況が変化する中で、機関誌から自由な議論の場へと方針を転換すべきであり、本来、目指していたような議論の場となるなら年二回でも構わないとする意見が大勢を占めているのではないだろうか。基本的に PDF 配信を行い、戦略的に分野を開拓するために紙媒体を活用するという方法も考えられる。（昌子幹事長）

・新たな読者を開拓するため、初回は印刷物を送付し、購読を希望する場合には次回から PDF 配信を行うという方法を採用することは考えられる。（伊東委員長）

- 意見交換を踏まえ、土木史フォーラムの発行回数を 3 回から 2 回へと削減することが承認された。ま

た、土木史フォーラムの内容や配送先については小委員会で引き続き検討することが確認された。

- 土木学会出版文化賞候補の検討作業を土木史フォーラム小委員会でを行うことを幹事会から提案されたことが報告された。この件に関し、下記に示すような意見交換がなされた。
 - ・これまで、出版文化賞候補の選定と推薦は委員長個人によるものであった。しかし、委員会として土木史関連図書を推薦するという観点から、委員会活動に含めるべき作業内容と考えられ、その作業先として土木史フォーラム小委員会が適当と考えられる。(昌子幹事長)
 - ・ぜひお願いをしたい。土木学会論文賞候補の選定は編集小委員会の作業である。今後、作業漏れ等を防ぐためにその点に関しても明文化することが望ましい。(為国幹事)
- 今年度は候補選定を小委員会のスケジュールに組み込み、作業を進めている。(深堀幹事)
- 意見交換の結果、土木史フォーラム小委員会が土木学会出版文化賞候補の選定と推薦を行うことが了承された。

4) オーラル・ヒストリー研究小委員会報告 (藤井幹事) ⇒資料 1-7

- 配付資料に基づき、平成 15 年度の活動報告と平成 16 年度の活動予定が報告された。また、2004 年 11 月 19 日にワンデイセミナーを開催することも報告され、ワンデイセミナーの広報活動に関し、意見交換がなされた。

5) 土木史教材検討小委員会報告 (為国幹事) ⇒資料 1-8・1-11

- 資料 1-8 に基づき、委員構成と現在までの活動状況が報告され、昌子幹事長から各委員・幹事に周囲への広報活動が依頼された。また、土木学会に出版企画書を提出したことも報告された。
 - 資料 1-11 に基づき、土木学会全国大会の共通セッション部門でのセッション内容が説明された。
 - 教科書は史観の相違から統一的なものを作成することが困難であるため、教科書ではない土木史教材の作成を目指していることが報告された。また、土木史教材等に関し、下記に示すような意見交換がなされた。
 - ・JABEE や土木学会の技術者教育・継続教育等もあり、関心は高いはずである。現在の状況の中で、技術者倫理を含めた土木史に対する関心は高まっているものと考えられる。しかし、土木史をどのように教えるべきかは明瞭ではなく、教科書等もまとまってはいない。(為国幹事)
 - ・河村委員から「日本土木史総合年表」の紹介がなされた。
 - ・作成する教材に史観を出さないよう、小委員会の各員には依頼をしている。それは教材の普及のために必要なことと考えている。(為国幹事)
 - ・近代が中心となっているが、ぜひ近代化以前の古いものについても含めてほしい。(田中(邦)委員)
- あえて近代にターゲットを絞っている。全てをまとめることは困難であるため、まずは近代を整理したいと考えている。今後、近代化以前のものを取り上げた教材を作成する可能性はある。(為国幹事)
- ・今回の教材は初学者を対象としており、学習者のオーバーフローを防ぐために内容を絞り込む予定である。(為国幹事)

6) 土木学会選奨土木遺産選考委員会報告 (為国幹事) ⇒資料 1-9

- 配付資料に基づき、選奨土木遺産選考委員会の所属部門が変更されたことと、8 月 10 日に開催された選考委員会の報告がなされた。

7) 古市公威研究小委員会報告 (藤井幹事)

- 本小委員会は昨年度で活動を終了することになっていたが、科学研究費補助金の関係から本年度も活動を継続することが要望された。これに対し、発展的に活動を継続することはありうる等の意見が出され、小委員会に対する予算措置の必要性に対する確認がなされた。
- 結果として、小委員長から活動報告等を提出してもらった上で、古市公威研究小委員会を本年度も継

続することが承認された。ただし、土木史研究委員会としての予算措置は行わないことが確認された。

8) 平木橋保存要請書の送付について (昌子幹事長) ⇒資料 1-10

- 以前に送付した要請書に対する反応が無かったため、8月2日付で改めて要望書を兵庫県に送付したことが報告された。また、電話でそれに対する回答があったことと、回答を土木史研究委員会のウェブサイトに掲載したことが報告された。
- 8月4日に開催された幹事会において、阪急梅田駅改築への対応の必要性が議論されたことが報告された。阪急梅田駅の改築に関し、まずは情報の確認を行い、対応が必要と判断された場合は電子メール等で対応することが確認された。

5. 審議事項

1) 平成16年度予算案について

- 土木学会 橋本氏から平成16年度の予算案の方針が説明された。その骨子は以下に示す通りである。
 - ・以前は小委員会予算を削減する方針であったが、今年度予算は増加している。その点を踏まえ、議論してほしい。
 - ・行事費で対応可能な費目は限定されている。
 - ・今年度は新たに土木史教材検討小委員会が発足しているため、その予算配分を検討してほしい。
- 予算配分に関し、各小委員会とも厳しい状況にあるが、新しい小委員会へ予算を配分すべきとの意見が出された。議論の結果、土木史フォーラムは調査研究費から10万円の予算配分とし、原稿料やアルバイト料とする。そして、その他の経費は行事費で賄うことが了承された。オーラル・ヒストリー研究小委員会や古市公威研究小委員会は予算配分を行わないことが了承された。土木史教材検討小委員会は20万円の予算配分とすることが了承された。

2) 企画・展示検討小委員会設置について (昌子幹事長)

- 8月4日開催の幹事会で世界遺産候補となりうる土木遺産の検討と企画・展示検討小委員会の設置が議論された経緯が説明され、趣旨は近いが2つの検討会や準備会を設置することが提案された。そのことに関し、以下に示すような意見交換がなされた。
 - ・日本の土木遺産が世界遺産にふさわしいものを含んでいるかを検討したい。現在の選定委員会には土木史関係者は含まれていない。そのため、こちらから声を挙げていかないと目を向けてくれないだろう。ただし、5～10年の長期間を見据えた活動が必要である。これは委員会の社会的貢献活動の一環となりうる。(伊東委員長)
 - ・中長期的な視点で小委員会を設置するのであるなら、このことには賛成したい。世界遺産と土木関係者とのつながりは実は強いものがある。どのようなものが候補として考えられるか。(河村委員)
 - 九州の石橋群や新居浜等の銅山遺構が挙げられる。1～2年では困難であり、中長期的に活動を進めたい。世界遺産にどのようなものがあるかを知る必要がある。小さなものであっても、世界遺産になりうると思う。また、世界遺産は同一国内から同じ種類のものを選出することができないため、様々なカテゴリーで検討する必要がある。準備会等を通じ、一つや二つでも候補を挙げていきたい。これは選奨土木遺産の発展した形としても捉えることができる。(伊東委員長)
 - ・世界遺産はオリジナルのものがないと選定されないのか。復元したもの等の扱いはどうなるのだろうか。歴史的背景等を重要視するという考え方はありうるのだろうか。(松村副委員長)
 - ・長崎大学の方が軍艦島で世界遺産を目指したNPO活動を行っており、岡田幹事はその活動に参加している。岡田幹事を通じて、様々な情報を入手できるのではないだろうか。(田中(尚)幹事)
 - ・選奨土木遺産は調査研究部門から総務部門へと移動している。そのため、調査・研究をどこが担当するのか不明瞭となっている。選奨土木遺産との住み分けを踏まえ、検討を進めてほしい。(為国幹事)
- 結果として、幹事会で小委員会の設置等に関する議論を進めることが承認された。

3) 土木史研究委員会の構成について（昌子幹事長）

- 昨年度までに幹事会の改革が図られてきたが、今後は改選のルールや各委員・幹事の負担調整等の委員会全体の改革を検討することが提案された。
- この件に関し、現在は個人に頼らざるを得ない体制にある・戦略的に活動できる組織にする必要がある等の意見が出され、委員会構成のあり方を幹事会で検討することが承認された。

6. その他

- 土木史研究の審査部門に関し、下記に示すような意見交換がなされた。
 - ・事例報告など、地域活動等の成果を研究論文として発表できる分野を設置することはできないだろうか。このことを土木史研究編集小委員会へと提案したい。（伊東委員長）→重点部門に含めるという議論は以前の編集小委員会で行われていた。そのため、重点部門に含まれている。（田中(尚)幹事）
 - ・可能であるなら、長いスパンで考えていくことが望ましい。（伊東委員長）
 - ・研究論文にケーススタディを含めることは重要なことと考える。その分野を育てていく方向で検討していただきたい。（河村委員）
- 土木史研究の査読者を幅広い分野にわたらせるため、歴史学等を専門とする方等を紹介していただくように深堀幹事から各委員・幹事へと依頼がなされた。

（文責：日野 智）